

第51回 県政に関する世論調査の結果について

平成28年5月20日
千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2469

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は本年度2回目の調査で県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に実施しました。

具体的な内容としては、高齢者が地域で暮らし続けるための施策、犯罪のない安全で安心なまちづくり、道路整備、障害者施策、地域リハビリテーション、環境保全に関する取組、食育、花の消費、人権問題について調査を行いました。

1 調査の設計

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査対象 | 千葉県在住の満20歳以上の男女個人 |
| (2) 標本数 | 3,000人 |
| (3) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法
※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。 |
| (4) 調査方法 | 郵送法(郵送配付一郵送回収) |
| (5) 調査時期 | 平成27年11月26日～12月21日 |

2 回収結果

有効回収数(率) 1,504(50.1%)

3 調査の項目

県政の主要課題

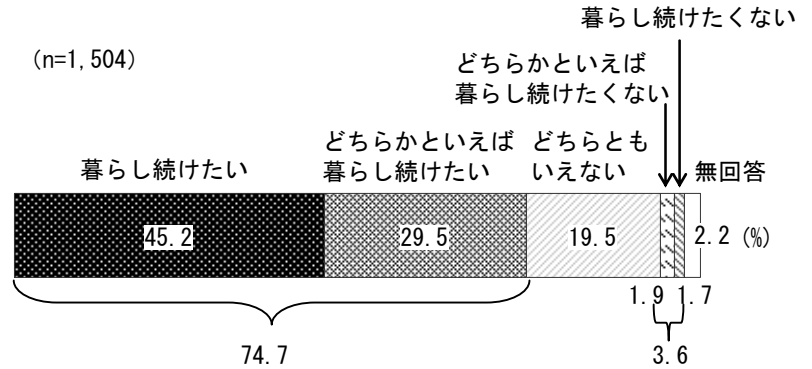
- ① 高齢者が地域で暮らし続けるための施策について
- ② 犯罪のない安全で安心なまちづくりについて
- ③ 道路整備について
- ④ 障害者施策について
- ⑤ 地域リハビリテーションについて
- ⑥ 環境保全に関する取組について
- ⑦ 食育について
- ⑧ 花の消費について
- ⑨ 人権問題について

4 調査の結果

1 高齢者が地域で暮らし続けるための施策について

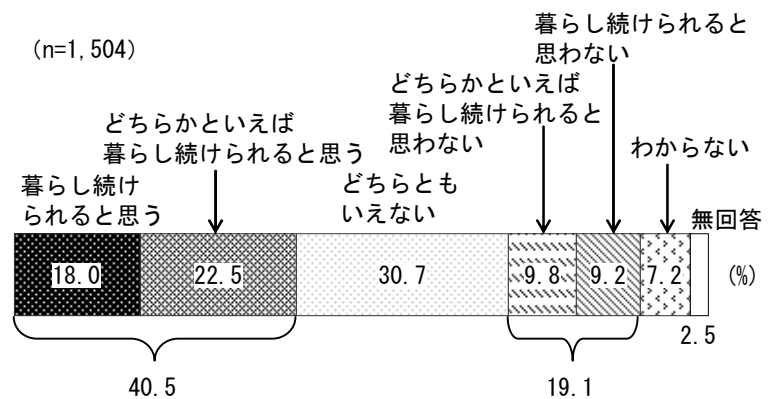
(1) 介護が必要になっても住み慣れた地域での居住意向

介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいかを聞いたところ、「暮らし続けたい」(45.2%)が4割台半ば、「どちらかといえば暮らし続けたい」(29.5%)を合わせた『暮らし続けたい』(74.7%)は7割台半ばである。



(2) 介護が必要になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられるか

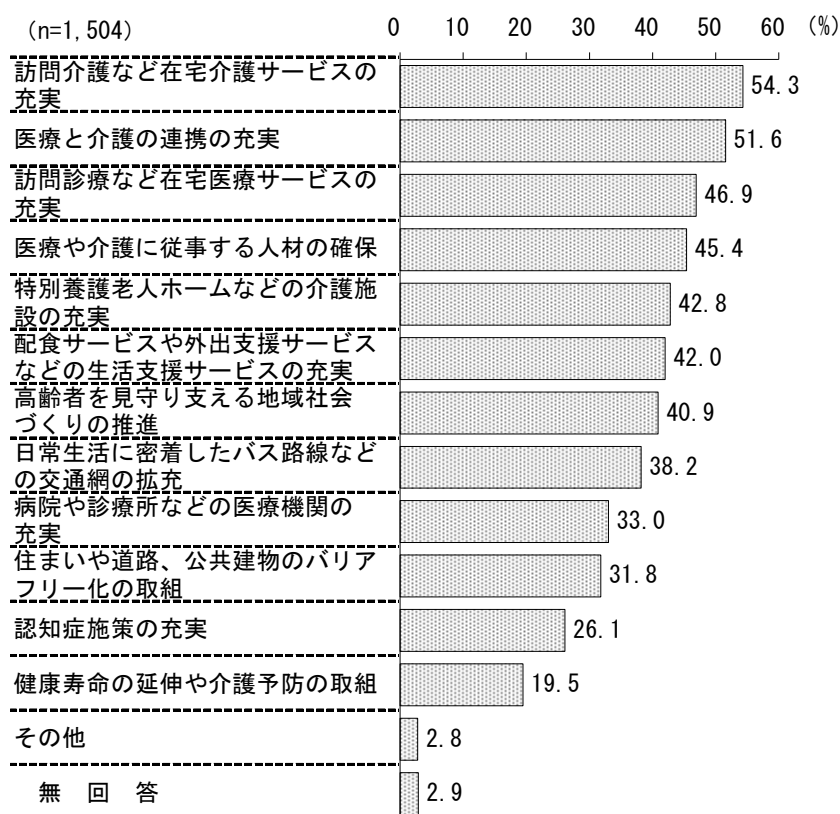
介護が必要になっても現在住んでいる自宅や地域で暮らし続けられるかを聞いたところ、「暮らし続けられると思う」(18.0%)が約2割、「どちらかといえば暮らし続けられると思う」(22.5%)を合わせた『暮らし続けられると思う』(40.5%)は4割となっている。



(3) 地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、特に千葉県に求めること

(複数回答:いくつでも)

地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、千葉県に求めることは「訪問介護など在宅介護サービスの充実」(54.3%)が5割台半ばで最も高く、以下、「医療と介護の連携の充実」(51.6%)、「訪問診療など在宅医療サービスの充実」(46.9%)、「医療や介護に従事する人材の確保」(45.4%)、「特別養護老人ホームなどの介護施設の充実」(42.8%)、「配食サービスや外出支援サービスなどの生活支援サービスの充実」(42.0%)、「高齢者を見守り支える地域社会づくりの推進」(40.9%)が続く。



《「高齢者が地域で暮らし続けるための施策について」の自由回答(抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、366人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

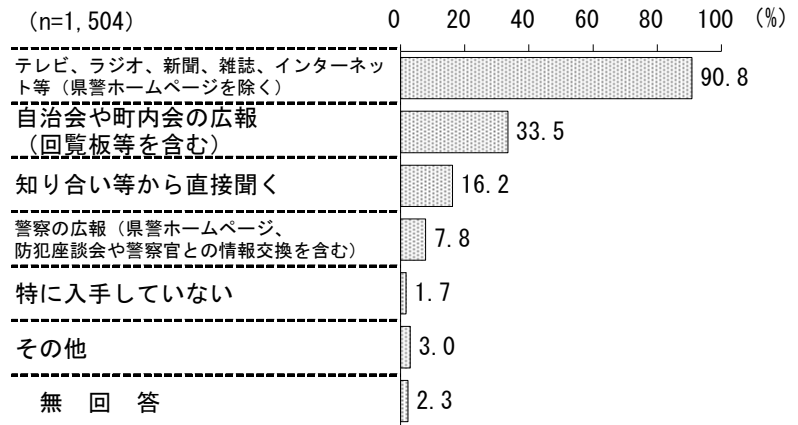
- 若い人ほど、高齢者、介護など興味がないと思うので、興味や理解しやすい広報や情報を発信してほしい。(男性、30代、葛南地域)
- 暮らしやすい施策の為に、また、サービスと言って、我々県民の負担が増加しては困る。こども110番や見守り隊みたいな民生委員よりも気軽なつながりがあるといいと思う。(女性、60～64歳、千葉地域)
- 私たちが高齢者になる頃は、施設不足になると聞いている。もっと施設や人材を増やしてほしい。また働きやすい職場にして、人材を確保してほしい。(女性、50代、葛南地域)
- バリアフリー、医療、介護等について、大きな改善がみられない。一層充実されることを期待しています。(男性、60～64歳、千葉地域)
- 介護する側も重要と思われます。介護する側の働きやすい環境作りも取り組むべきでは。勤務体制、賃金等。(女性、40代、君津地域)
- ①健康を維持する、食生活、運動などの生活習慣を頻繁に啓発する。具体的なデータと共に。②高齢者同士や、子供達、地域の人達と交流できる機会を増やす。心身の健康に役立つと思われる。③自然が多い運動(ウォーキング等)ができる場所と、市民の為に農園(農作業で身体を動かす)をつくると、心にも体にも良い影響を与えられると思われる。(男性、20代、印旛地域)

2 犯罪のない安全で安心なまちづくりについて

(1) 犯罪や防犯に関する主な情報入手源

(複数回答：2つまで)

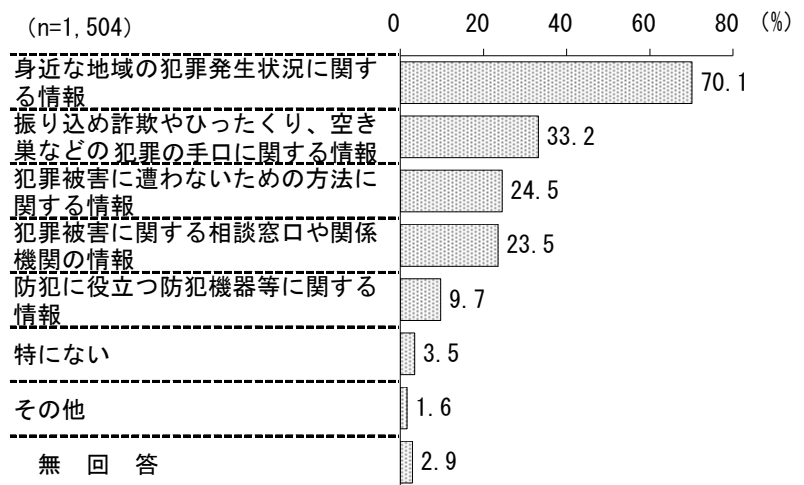
犯罪や防犯に関する情報の入手源を2つまで選んでもらったところ、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネット等（県警ホームページを除く）」(90.8%)が9割と最も高くなっている。以下、「自治会や町内会の広報（回覧板等を含む）」(33.5%)、「知り合い等から直接聞く」(16.2%)が続く。



(2) 提供してほしい犯罪情報等

(複数回答：2つまで)

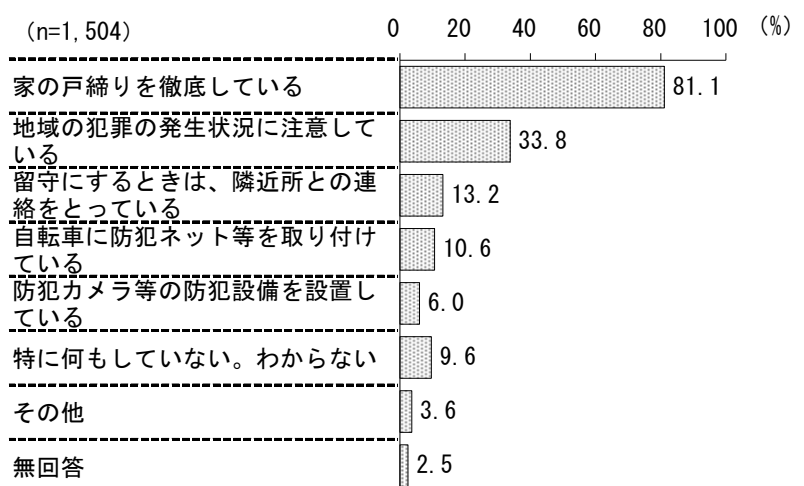
提供してほしい犯罪情報等を2つまで選んでもらったところ、「身近な地域の犯罪発生状況に関する情報」(70.1%)が7割で最も多い。以下、「振り込め詐欺やひったくり、空き巣などの犯罪の手口に関する情報」(33.2%)、「犯罪被害に遭わないための方法に関する情報」(24.5%)、「犯罪被害に関する相談窓口や関係機関の情報」(23.5%)が続く。



(3) 犯罪に遭わないために心がけていること

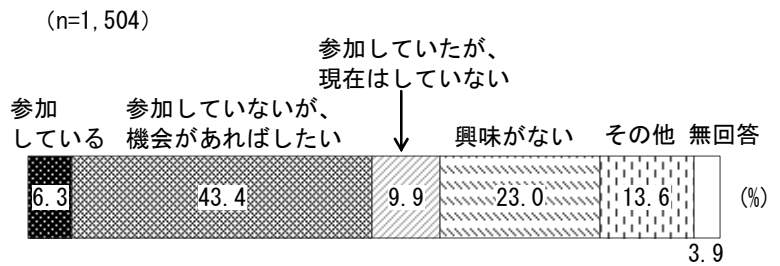
(複数回答：いくつでも)

今、犯罪に遭わないために心がけていることを聞いたところ、「家の戸締りを徹底している」(81.1%)が8割を超えて最も高い。以下、「地域の犯罪の発生状況に注意している」(33.8%)が続く。



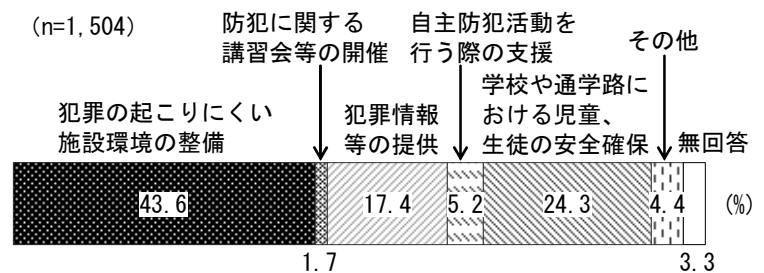
(4) 自主防犯活動（防犯パトロール隊など）参加状況

自主防犯活動（防犯パトロール隊など）の参加状況をみると、「参加していないが、機会があればしたい」（43.4%）が4割台半ばと最も多く、「参加している」（6.3%）は6%、「参加していたが、現在はしていない」（9.9%）は約1割であった。



(5) 犯罪を防止するために、行政（警察を含む）に望むこと

犯罪を防止するために、行政（警察を含む）に望むことは「犯罪の起こりにくい施設環境の整備」（43.6%）が4割台半ばと最も高い。次いで「学校や通学路における児童、生徒の安全確保」（24.3%）、「犯罪情報等の提供」（17.4%）となっている。



《「犯罪のない安全で安心なまちづくりについて」の自由回答（抜粋）》

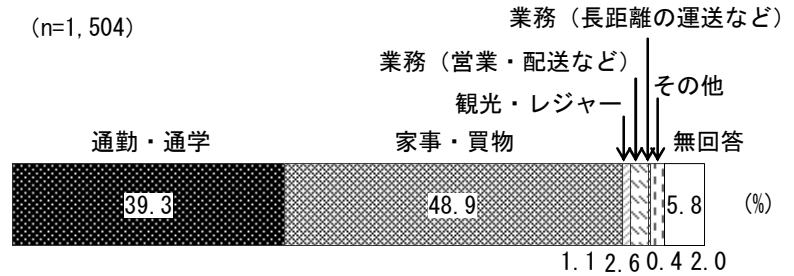
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、305人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 近所づきあいが最近希薄になっていると思う。お互いが声を掛けあう社会、挨拶が自然と交せる近隣との関係が防犯に自然と役立っているのではと思う。（男性、60～64歳、東葛飾地域）
- 主にテレビで犯罪情報等教えてくれて、心がまえが出来、助かっている。1度息子のなりすまし電話があったが未然にふせぐ事が出来て被害にあわずに済んだ。
（女性、65歳以上、東葛飾地域）
- 出来ることであれば夜間のパトロールをお願いしたいです。仕事をしている為、妻も夜遅く歩いているとこわいと言ったりしているので。（男性、30代、葛南地域）
- 犯罪を犯したくない街に。街をきれいにする活動。道行く人があいさつを元気良く交わす街に。
（男性、30代、安房地域）
- 子供との交流が年々少なくなって来てさびしい思いをしている。子供と老人の交流、犯罪の少ない安全な暮らしの基礎となる気がします。（男性、65歳以上、長生地域）
- 近隣の交番は無人の時が多々ある。犯罪等はいつ起きるかわからないので、警察官の方の常駐をお願いしたい。（女性、65歳以上、千葉地域）
- 街灯がない所が多く、夜歩いていて怖い。警察の方のパトロール強化や防犯カメラ等、未然に防ぐ対策をしてほしい。（女性、40代、印旛地域）

3 道路整備について

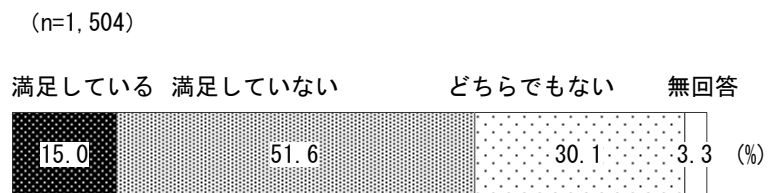
(1) 主な道路利用内容

普段の生活の中で道路を使用する目的を聞いたところ、「家事・買物」(48.9%)が約5割と最も多く、次いで「通勤・通学」(39.3%)が約4割となっている。



(2) 千葉県内の道路状況の満足度

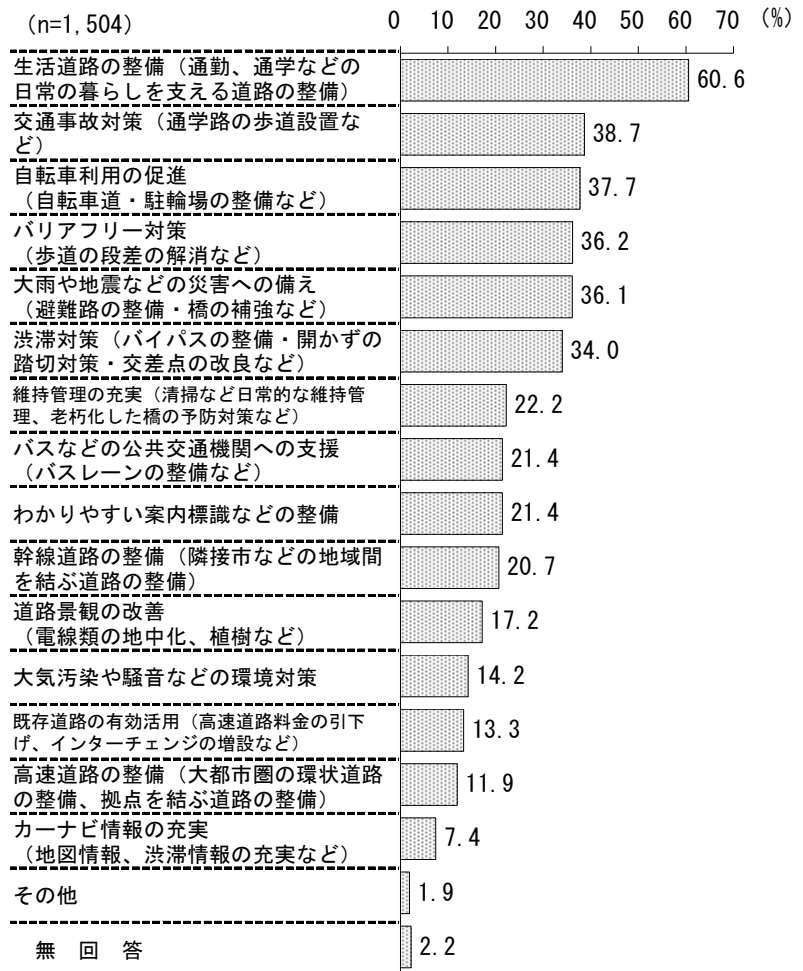
千葉県内の道路状況について満足しているかを聞いたところ、「満足している」(15.0%)が1割台半ばとなっている。一方、「満足していない」(51.6%)が5割を超えている。



(3) 今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題

(複数回答：いくつでも)

今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題としては、「生活道路の整備」(60.6%)が6割と最も高い。以下、「交通事故対策」(38.7%)、「自転車利用の促進」(37.7%)、「バリアフリー対策」(36.2%)、「大雨や地震などの災害への備え」(36.1%)、「渋滞対策」(34.0%)が続く。



《「道路整備について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、360人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 歩道のブロックがずれていたり、歩いている時は気づかないが、ベビーカー、車椅子などを押しているとつかかることが多い。（女性、50代、葛南地域）

- 舗装工事をしているかと思えば、すぐに掘り返している状態でデコボコ状態が長期にわたり継続しているので、掘り返す必要がある状態が発生すれば、横の連携をとってまとめてやってもらいたい。（男性、65歳以上、千葉地域）

- 道路に立木の枝が出て、車を運転する際大変見透しが悪く、危険な箇所がある。樹木が多いのは大変良いが、道路際の整備はもっと安全になる様をお願いしたい。（男性、65歳以上、長生地域）

- 館山道は非常に便利なのに、一車線しかない区間があるので、すべて2車線にして欲しい。圏央道も同じ。（男性、20代、君津地域）

- 千葉県は観光地が多いのに交通の不便さがあり、根本的に高速道路等を拡充してほしい。
(男性、65歳以上、東葛飾地域)

- 子供達の通学道路の整備をしっかりとやって欲しい。歩道が整備されていない通学路をしっかりと安全に歩けるようにしてほしい。（女性、65歳以上、夷隅地域）

- 自転車専用道路が欲しい。車道と歩道、どちらを走って良いのか…。道路が狭い。運転する側からも、危ない。（女性、40代、葛南地域）

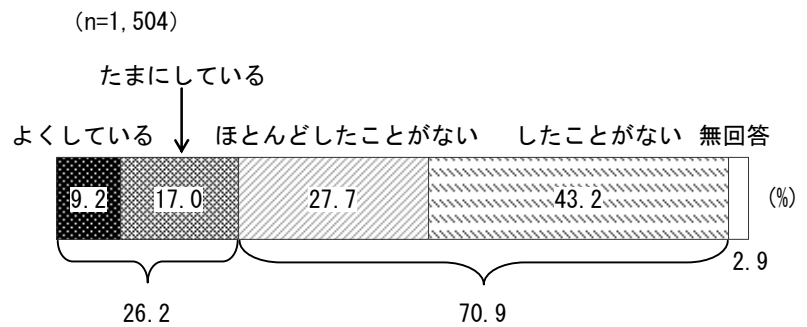
- 常に感じている事ですが、地震及び災害の時に、現在日本の国がほとんど電柱がたって居る為、電線類の地中化がとても重要な事と思っています。景観より何よりも、災害の時を考えると、早く地中化が必要ではないでしょうか？（女性、65歳以上、東葛飾地域）

4 障害者施策について

(1) 障害のある人に対する支援経験

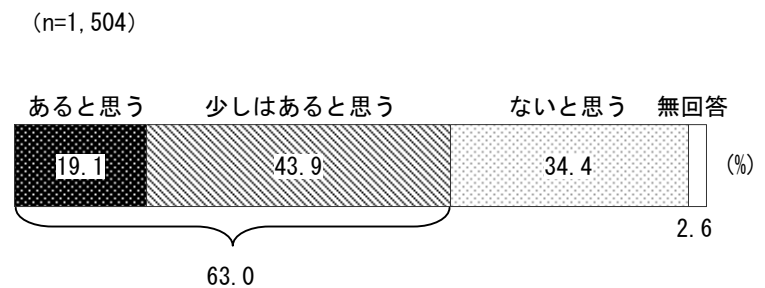
障害のある人に支援をしたことがあるかを聞いたところ、「したことがない」(43.2%)が4割台半ば、「ほとんどしたことがない」(27.7%)を合わせた『したことがない』(70.9%)は7割となっている。

一方、「よくしている」(9.2%)、「たまにしている」(17.0%)を合わせた『している』(26.2%)は2割台半ばとなっている。



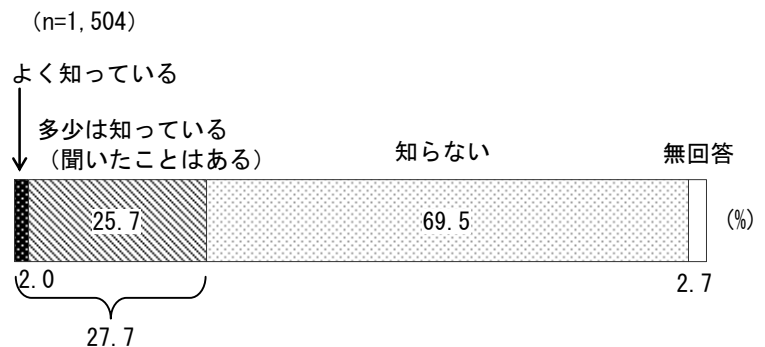
(2) 障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見の有無

障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思うか聞いたところ、「あると思う」(19.1%)が約2割、「少しはあると思う」(43.9%)を合わせた『あると思う』(63.0%)は6割台半ばとなっている。



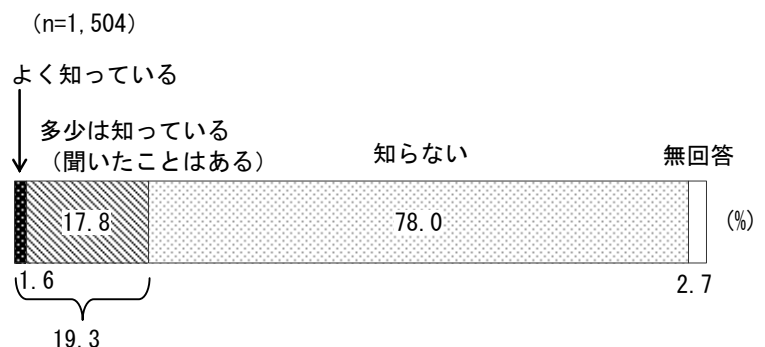
(3) 「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知状況

障害のある人に対する差別をなくすための「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を知っているか聞いたところ、「知らない」(69.5%)が約7割となっている。



(4) 「障害者差別解消法」認知状況

平成28年4月から施行される「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)を知っているか聞いたところ、「知らない」(78.0%)が約8割となっている。



《「障害者施策について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、193人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 障害者の活躍している状況や環境を整備する事で、可能性を増やす施策などを公表し、認識してもらう方法を検討する。（男性、40代、君津地域）

- 障害者認定の有無に関係無く県、市で取り組んでほしいです。外観で他人に認めてもらえる人と内面上の人とではむずかしいけれど、車の表示マークの小さい物でもいいので持参してもらえる様にしてもらえると助かります。（女性、50代、東葛飾地域）

- バリアフリーや視覚支援は最低やらなければいけないことだと思う。誰でもわかるよう、ユニバーサルデザインを色々な所にとり入れるべき。健常者でも分かりづらいことが多い。標識など。（男性、20代、葛南地域）

- 障害を持っていても社会復帰したいと思う人は多いのに、元の職場へ戻るための支援が不足していると思う。元の職場でなくても、働ける場所が少ないと思う。企業などにも理解を促進してほしい。大企業だけでなく、中小企業にも。（女性、30代、海匝地域）

- 子供達にも障害のある方々への接し方を経験によって育てられるような環境を作ってあげて欲しい。（女性、60～64歳、夷隅地域）

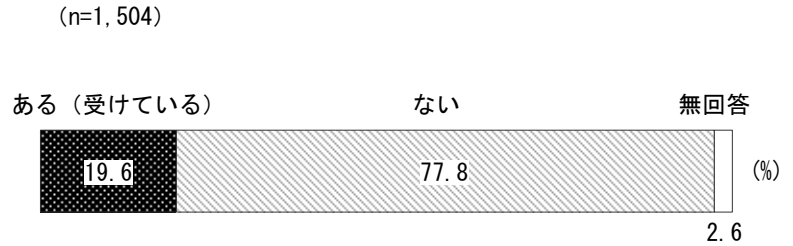
- 障害者になりえることが誰にでもあることをもっともっと認知すべきことであると思います。突然自分になってしまっただけで解ることがあります。身近な所に早い時期にそういうこと知ることが大切だと考えます。（男性、50代、山武地域）

5 地域リハビリテーションについて

(1) リハビリテーションを受けた経験

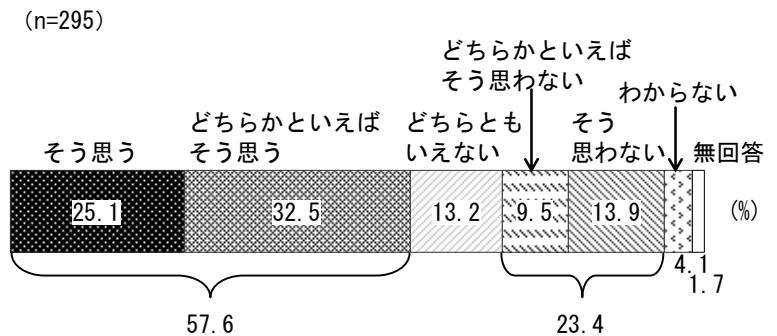
地域や病院、施設等で、理学療法士、作業療法士または言語聴覚士などによるリハビリテーションを受けたことがあるかを聞いたところ、「ない」(77.8%)が約8割となっている。

一方、「ある(受けている)」(19.6%)は約2割となっている。



(2) 適切なリハビリテーションが提供されたと思うか

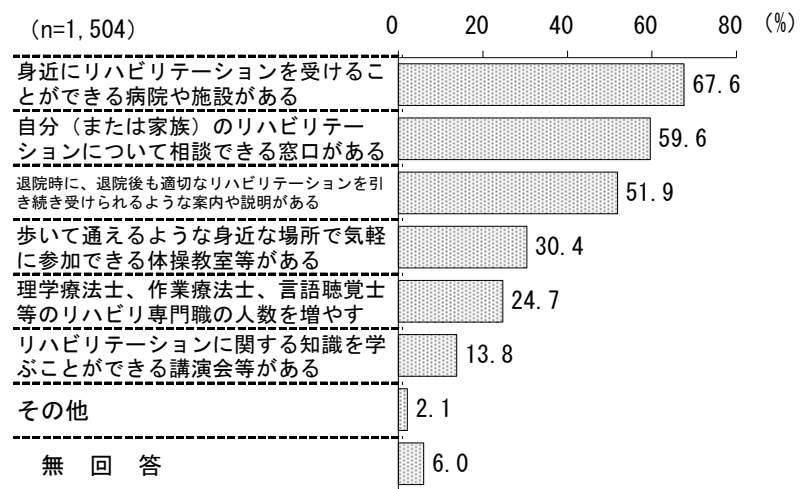
リハビリテーションを受けたことがある295人に対して、地域での介護予防から入院中・退院後の生活までのそれぞれの段階で途切れない適切なリハビリテーションが提供されたと思うかの問いには、「そう思う」(25.1%)が2割台半ばで、「どちらかといえばそう思う」(32.5%)を合わせた『そう思う』(57.6%)は約6割となっている。



(3) 適切なリハビリテーションが提供されるために重要だと思うこと

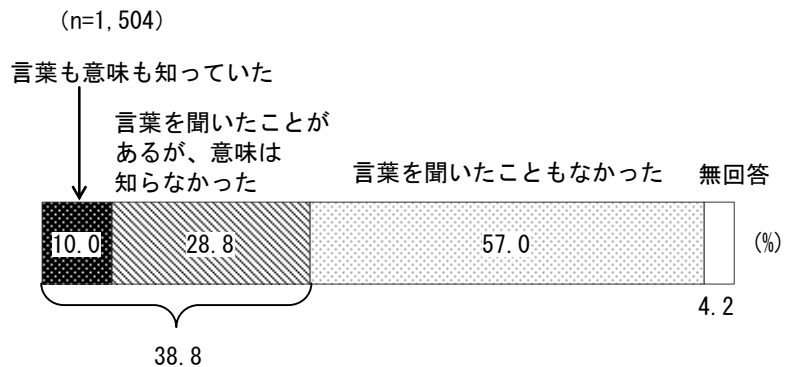
(複数回答:いくつでも)

適切なリハビリテーションが提供されるために重要だと思うことは、「身近にリハビリテーションを受けることができる病院や施設がある」(67.6%)が約7割と最も高い。以下、「自分(または家族)のリハビリテーションについて相談できる窓口がある」(59.6%)、「退院時に、退院後も適切なリハビリテーションを引き続き受けられるような案内や説明がある」(51.9%)、「歩いて通えるような身近な場所で気軽に参加できる体操教室等がある」(30.4%)となっている。



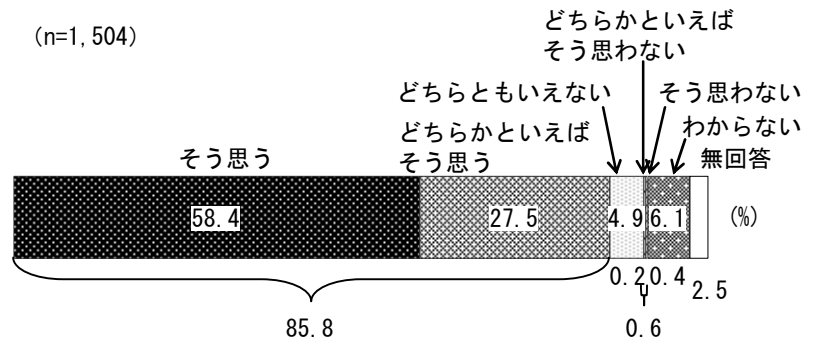
(4) 「地域リハビリテーション」という言葉の認知度

「地域リハビリテーション」という言葉を知っているか聞いたところ、「言葉も意味も知っていた」(10.0%)が1割、「言葉を聞いたことがあるが、意味は知らなかった」(28.8%)を合わせた『知っている』(38.8%)は約4割となっている。



(5) 「地域リハビリテーション」推進の必要性

「地域リハビリテーション」の推進は必要だと思うか聞いたところ、「そう思う」(58.4%)が約6割と高く、「どちらかといえばそう思う」(27.5%)を合わせた『そう思う』(85.8%)は8割台半ばとなっている。



《「地域リハビリテーションについて」の自由回答 (抜粋)》

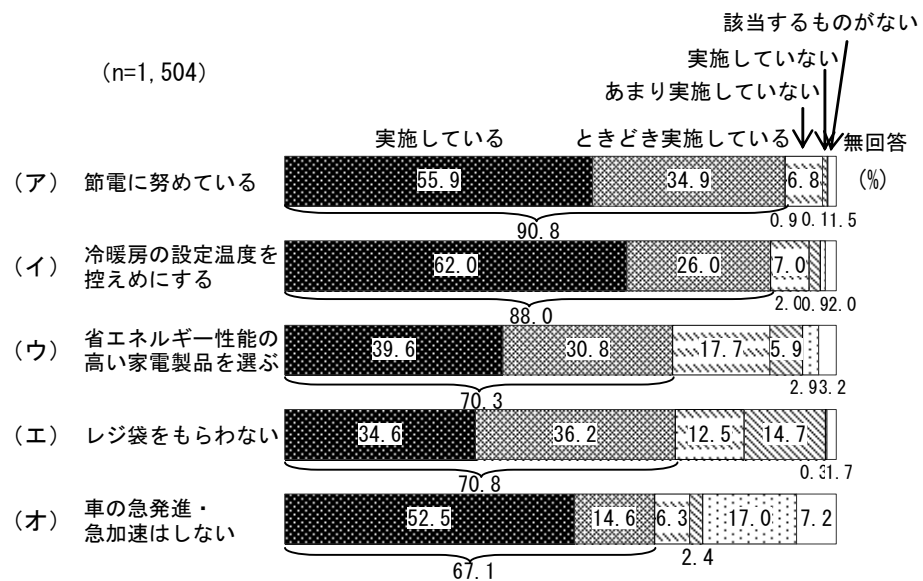
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、154人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 医療のリハビリは期間が定められていて、長くは続けられない。介護のリハビリは数が少なく、新規で利用したい人の枠がないのでリハビリがとぎれてしまう。(女性、50代、安房地域)
- 地方・地域により、リハビリについては格差があると思うので、解消に向けて取り組んでもらいたい。(男性、50代、海匝地域)
- 自分の身体は自分で守る、自分で工夫するのが大事で、何もかも行政に頼るのはどうでしょうか？ もちろんなにか良い取り組みがあれば参加させていただきます。
(男性、65歳以上、千葉地域)
- 地域リハビリテーションという言葉はずいぶん前からよく使われるようになったと思うが、実際、状況はあまり変わっていないと思う。(女性、30代、海匝地域)

6 環境保全に関する取組について

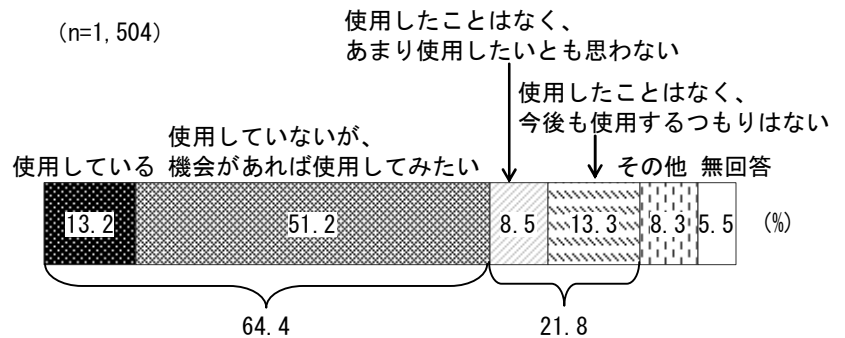
(1) 普段の生活での取組実施状況

普段の生活での環境保全に関する取組状況で、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している』でみると、「節電に努めている」(90.8%)が9割と最も高く、次いで「冷暖房の設定温度を控えめにする」(88.0%)が約9割と、5項目の中では高くなっている。



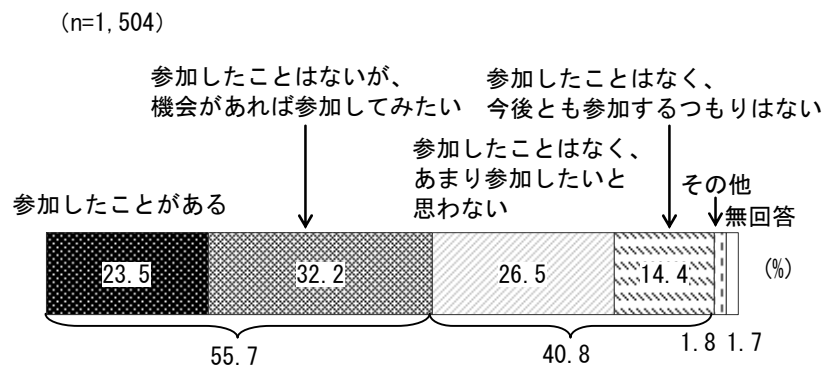
(2) 「次世代自動車」使用状況

「自宅や職場で「次世代自動車」の使用を聞いたところ、「使用している」(13.2%)は1割台半ばであった。「使用していないが、機会があれば使用してみたい」を合わせた『使用したい』(64.4%)は6割台半ばとなっている。



(3) 環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動の参加状況

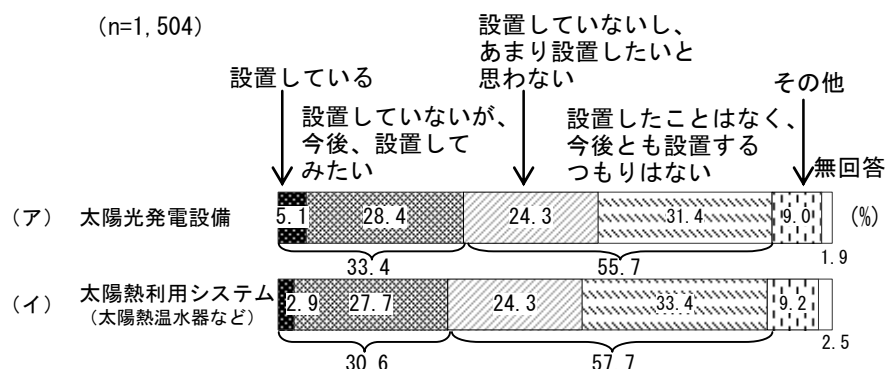
県や市町村などの行政や民間団体が実施する環境保全に関する講演やセミナー、あるいは植林や清掃活動などの環境ボランティア活動などへの参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」(23.5%)は2割台半ばとなっており、「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」を合わせた『参加したい』(55.7%)は5割台半ばであった。



(4) 太陽光など再生可能エネルギー利用設備の設置状況

太陽光など再生可能エネルギーを利用する設備を自宅に設置しているかを聞いたところ、太陽光発電設備を「設置している」(5.1%)は5%と少ない。一方、「設置していないし、あまり設置したいと思わない」(24.3%)と「設置したことはなく、今後とも設置するつもりはない」(31.4%)を合わせた『設置したくない』(55.7%)は5割台半ばとなっている。

太陽熱利用システムを「設置している」(2.9%)は約3%と少ない。一方、「設置していないし、あまり設置したいと思わない」(24.3%)と「設置したことはなく、今後とも設置するつもりはない」(33.4%)を合わせた『設置したくない』(57.7%)は約6割となっている。



《「環境保全に関する取組について」の自由回答 (抜粋)》

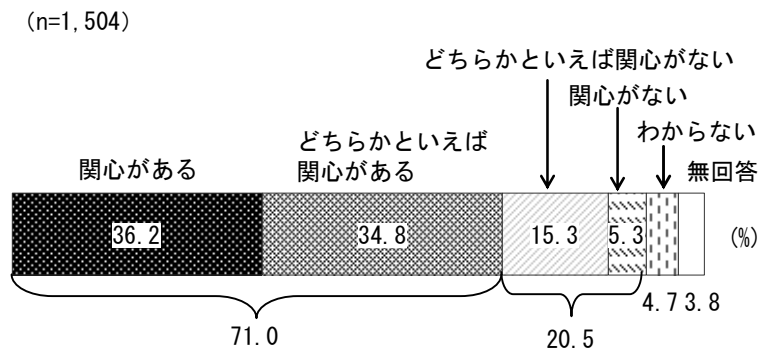
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、154人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 電気自動車、燃料自動車の充電ステーションを、都市部に増やしてほしい。あと、観光地などにも造ってほしい。次世代自動車での移動がしやすくなるから。(男性、30代、葛南地域)
- 節電、省エネに関して、東日本大震災直後、テレビ、ラジオ、新聞等で、節電、省エネを訴える声が大きかったが、最近は小さい。地球の温暖化問題と併せ、常時声を大きく訴えていくことが求められる。(男性、65歳以上、東葛飾地域)
- 「環境保全に対する取組」したいのはやまやまだが、本当に余裕がない。そういう人がたくさんいると思う。関心が無いのではない。(男性、30代、葛南地域)
- 設備の設置には高額な費用がかかる。市町村等の補助はあるが、補助が少なければ家庭で導入しようと思う人は増えないと思う。思い切った施策が必要だと感じた。
(男性、65歳以上、印旛地域)

7 食育について

(1) 食育への関心度

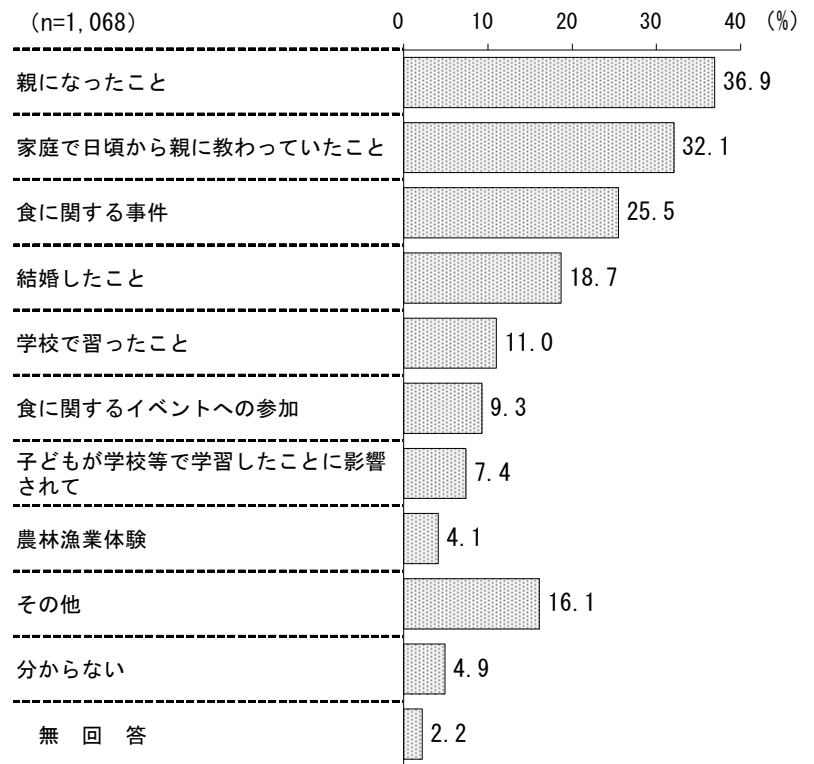
「食育」について関心があるかを聞いたところ、「関心がある」(36.2%)は3割台半ばとなっており、「どちらかといえば関心がある」(34.8%)を合わせた『関心がある』(71.0%)は7割を超えている。



(2) 食育に関心を持ったきっかけ

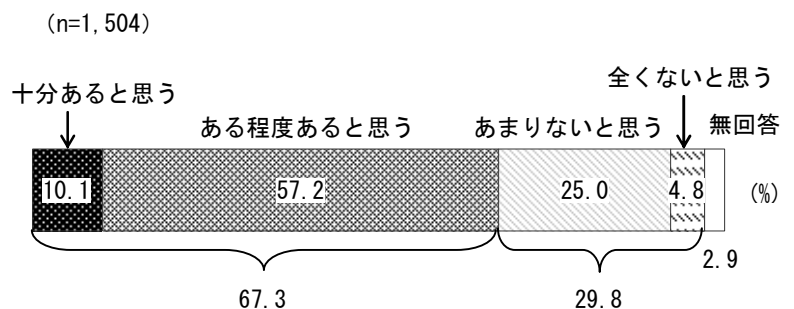
(複数回答：いくつでも)

「食育」に「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と回答した人に、食育に関心をもったきっかけを聞いたところ、「親になったこと」(36.9%)が3割台半ばと最も高く、以下、「家庭で日頃から親に教わったこと」(32.1%)が3割を超え、「食に関する事件」(25.5%)、「結婚したこと」(18.7%)と続く。



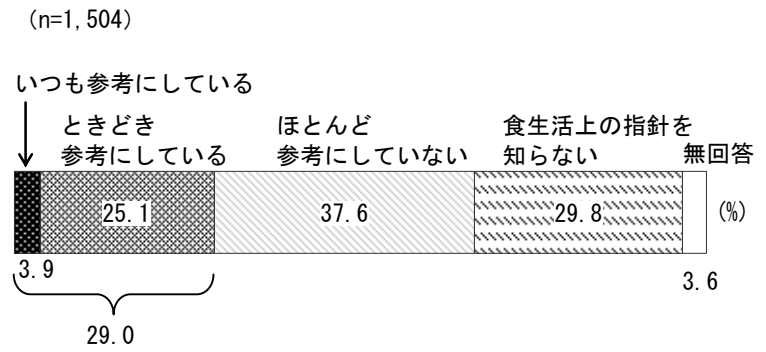
(3) 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識があると思うか

健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択するとよいかや、どのような調理が必要かについて知識があると思うかを聞いたところ、「十分あると思う」(10.1%)は1割で、「ある程度あると思う」(57.2%)を合わせた『あると思う』(67.3%)は約7割となっている。



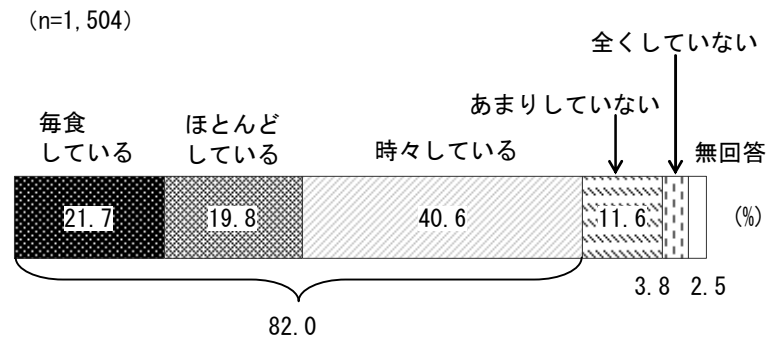
(4) 「ちば型食生活食事実践ガイドブック」、「食事バランスガイド」参考度

「ちば型食生活食事実践ガイドブック」、又は国が策定した「食事バランスガイド」等の何らかの食生活上の指針を参考にして食生活を送っているかを聞いたところ、「いつも参考にしている」(3.9%)は約4%で、「ときどき参考にしている」を合わせた『参考にしている』(29.0%)は約3割となっている。



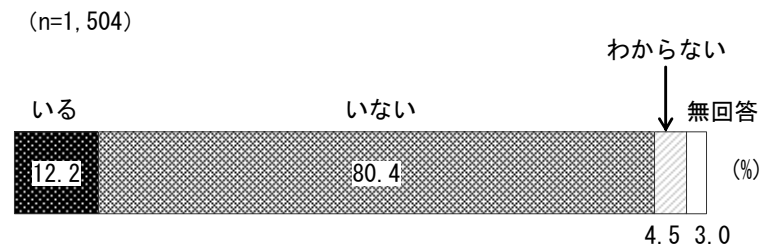
(5) 食を通じたコミュニケーションの実施状況

家族や友達と食卓を囲み、食事を楽しむ機会を持つなど、食を通じたコミュニケーションをとっているかを聞いたところ、「毎食している」(21.7%)が2割を超えており、「ほとんどしている」(19.8%)、「時々している」(40.6%)を合わせた『している』(82.0%)は8割を超えている。



(6) 直近1年以内での農林漁業体験の参加経験

直近1年以内に、本人や家族の中で農林漁業に関する体験の参加経験を聞いたところ、「いない」(80.4%)が8割となっており、「いる」(12.2%)は1割を超えた程度となっている。



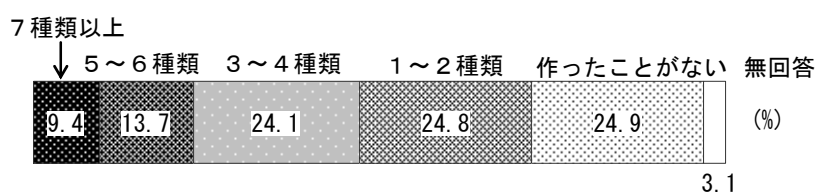
(7) お住まいの地域の郷土料理や行事食などの調理種類数

居住地域の郷土料理や行事食などを、家庭で何種類作ることがあるかを聞いたところ、「作ったことがない」

(24.9%) が2割台半ばとなっている。

一方、「1～2種類」から「7種類以上」の合計で『作ることがある』(72.0%) は7割を超え、そのうち、調理種類数は「1～2種類」(24.8%)、「3～4種類」(24.1%) がそれぞれ2割台半ばとなっている。

(n=1,504)



《「食育について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、146人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

○私の小さい頃は、行事がある季節の食事がとてもうれしかったです。その食事ができると、春・夏・秋・冬が感じられ、今でもあの頃を思い出すことがあります。このような季節を感じられる行事の食事があることをどんどん発信してほしいな—と思います(TVのCMやら、使ったりして)。
(女性、50代、葛南地域)

○食育は、やはり家庭の影響が大きいと思います。家庭で小さい頃から栄養バランスのとれた食事をとることが大切。学校では具体的な献立の立て方やレシピを教えてもいいのでは。
(女性、20代、東葛飾地域)

○食事は身体・心の健康について本当に大事な事。子供達に幼稚園の頃から食育の機会を作り、教えて欲しい(現在家庭での教育が不安有り)。又、県は放射能や残留農薬などしっかりとした指導で食の安全を守って欲しい。(男性、65歳以上、葛南地域)

○郷土料理(特にベッドタウン化してる地域)の広報はもっとしてもいいと思う。
(男性、40代、東葛飾地域)

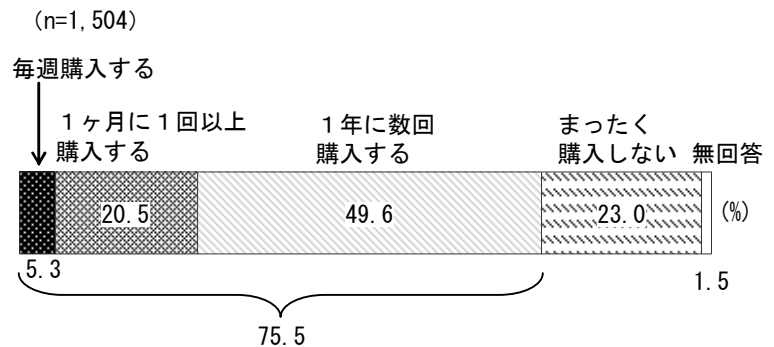
○グー・パー食生活、最初言葉だけで何の意味か分からなかった。同封されているチラシを読んで納得。とてもよく分かる説明で、もっと広く伝えてほしい。年齢がいくと、簡潔でとてもいい冊子です。参考になります。(女性、65歳以上、葛南地域)

○大人の(幼児～20才の子供を持っている親etc)料理教室などがあると参加したい。今よく目にするのは、赤ちゃん～5才以下や、お年寄りのものがほとんどなので。
(女性、30代、葛南地域)

8 花の消費について

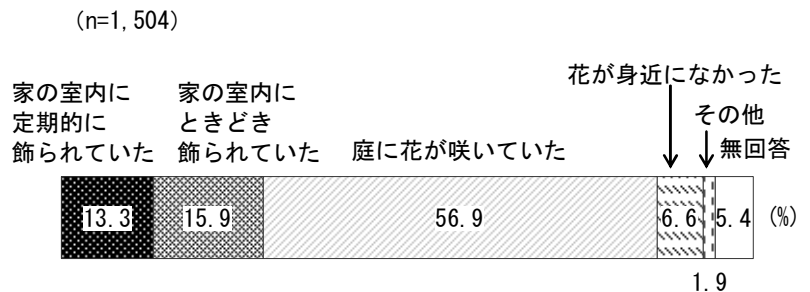
(1) 花の購入頻度

花をどれくらいの頻度で購入するかを聞いたところ、「毎週購入する」(5.3%)、「1ヶ月に1回以上購入する」(20.5%)、「1年に数回購入する」(49.6%)を合わせた『購入する』(75.5%)は7割台半ばとなっている。



(2) 子どもの頃にもっとも近い状況

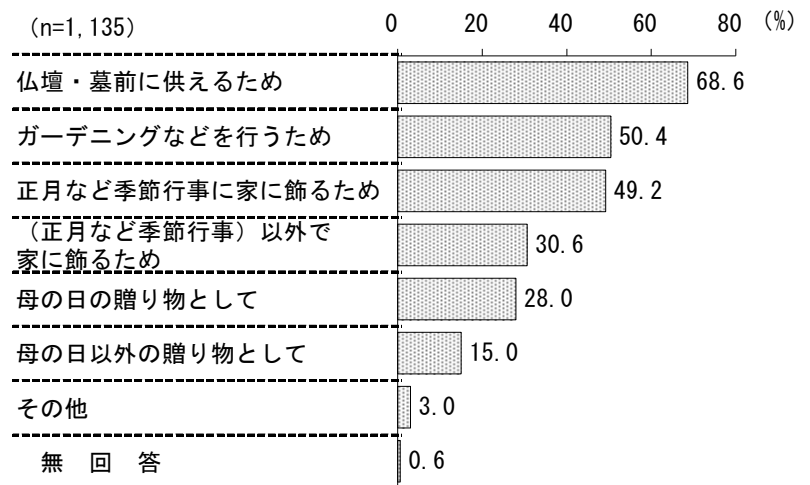
花を購入する人に子どもの頃の状況に最も状況を聞いたところ、「庭に花が咲いていた」(56.9%)が5割台半ばと最も多く、「家の室内にときどき飾られていた」(15.9%)、「家の室内に定期的に飾られていた」(13.3%)となっている。一方、「花が身近になかった」(6.6%)は約7%であった。



(3) 花を購入する時

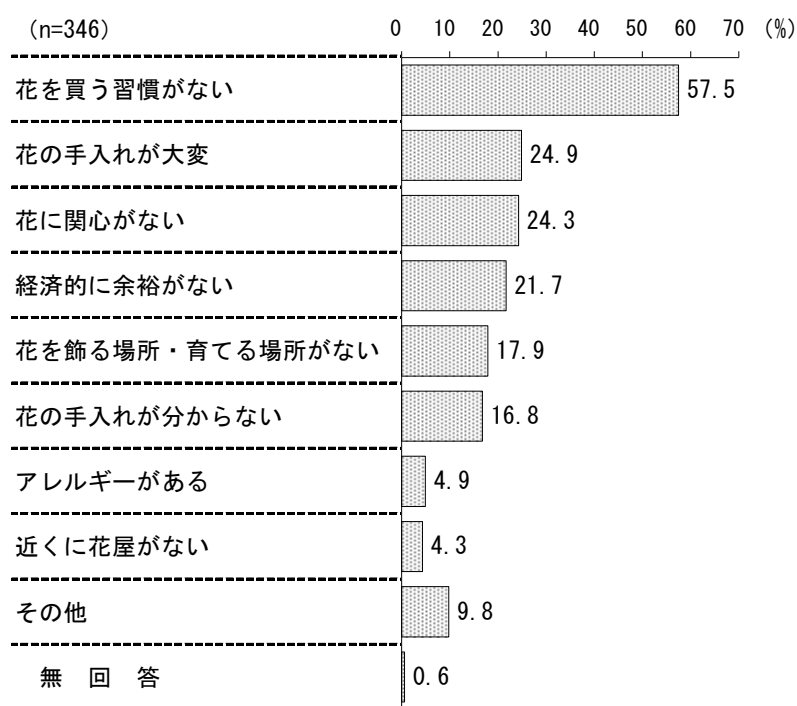
(複数回答：いくつでも)

花を購入する人にどのような時に花を購入するかを聞いたところ、「仏壇・墓前に供えるため」(68.6%)が約7割と最も多く、以下、「ガーデニングなどを行うため」(50.4%)、「正月など季節行事に家に飾るため」(49.2%)、「(正月など季節行事)以外で家に飾るため」(30.6%)、「母の日の贈り物として」(28.0%)、「母の日以外の贈り物として」(15.0%)となっている。



(4) 花を購入しない理由

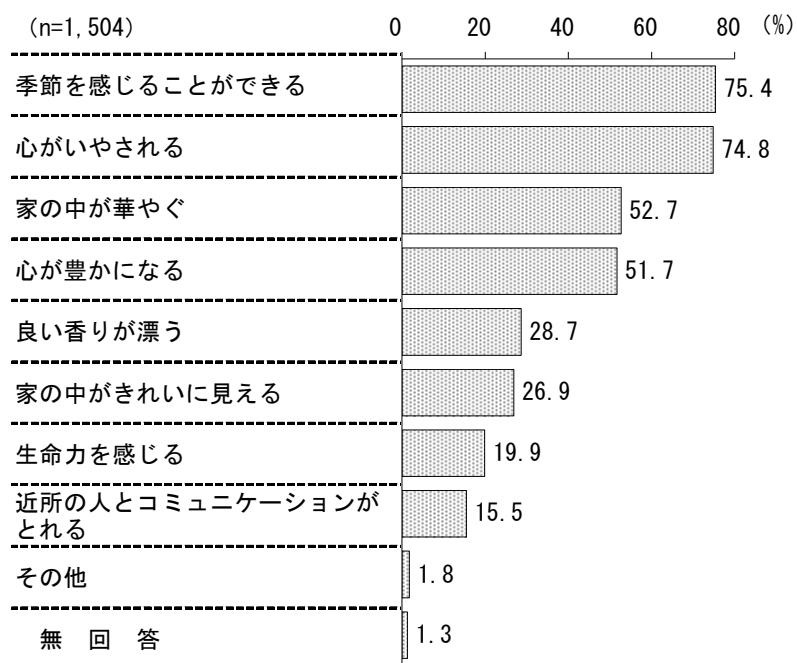
花をまったく購入しない人に購入しない理由を聞いたところ、「花を買う習慣がない」(57.5%)が約6割と最も多く、以下「花の手入れが大変」(24.9%)、「花に関心がない」(24.3%)、「経済的に余裕がない」(21.7%)と続く。



(5) 花のある暮らしのよいところ

(複数回答：いくつでも)

花のある暮らしのよいところはどうなところかを聞いたところ、「季節を感じることができる」(75.4%)、「心がいやされる」(74.8%)が7割台半ばで共に高く、以下、「家の中が華やぐ」(52.7%)、「心が豊かになる」(51.7%)、「良い香りが漂う」(28.7%)、「家の中がきれいにみえる」(26.9%)と続く。



《「花の消費について」の自由回答（抜粋）》

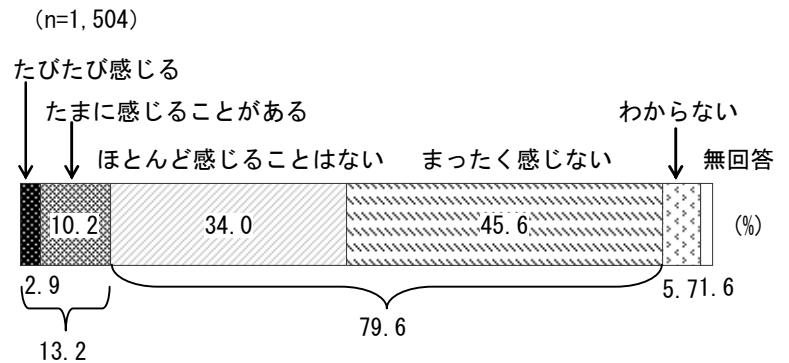
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、130人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 花は心を豊かにし、四季折々の草花が育つと、パワーを感じます。また冬の時期を迎え、さくらやさつきやあじさいが枯れてくると、来春までの準備と栄養をたくわえている様で、花が咲くのが楽しみです。（女性、40代、香取地域）
- 趣味で、花木や草花を育てています。四季折々の花は心が癒されるとともに、また来季も咲くことを願って、手入れに力を入れています。（男性、65歳以上、千葉地域）
- ご近所で株を分け合ったり、さし木を交換したり、いつの間にかコミュニケーションが花を通じて取れている。（女性、60～64歳、印旛地域）
- 興味があります！！ 子供の手が離れたらガーデニングなどに力を入れたいと思っています。（女性、30代、葛南地域）
- 花や緑のある暮らしは大切だと思っている。「花いっぱい運動」等、いっそうの推進をお願いしたい。（男性、50代、夷隅地域）
- 小、中学校にももう少し花のある環境がほしいです。子供に花の苗を植えさせたい（特に中学校）。（女性、40代、葛南地域）
- 花が家の中にあると心が豊かになるのは本当にうれしいが、花を購入するには経済的にゆとりがないと、特に若い人達には難しいかもしれません。（女性、65歳以上、葛南地域）
- 緑の豊かな千葉県には癒されます。近隣のコスモスやひまわり等々、配慮されていると感じている。（女性、60～64歳、印旛地域）
- 早春に千葉房総に一足早い春に、そして観光地としてアピールして花の消費の促進したら良いと思います。（男性、60～64歳、山武地域）
- 四街道市では、駅前や道路脇に季節の花がよく植えかえられています。今の時期はパンジーがとてもきれいです。とても気持ちが晴れるものです。これからも続けてくれることを希望します。（女性、50代、印旛地域）

9 人権問題について

(1) 過去5年間に差別や人権侵害を受けたと感じたこと

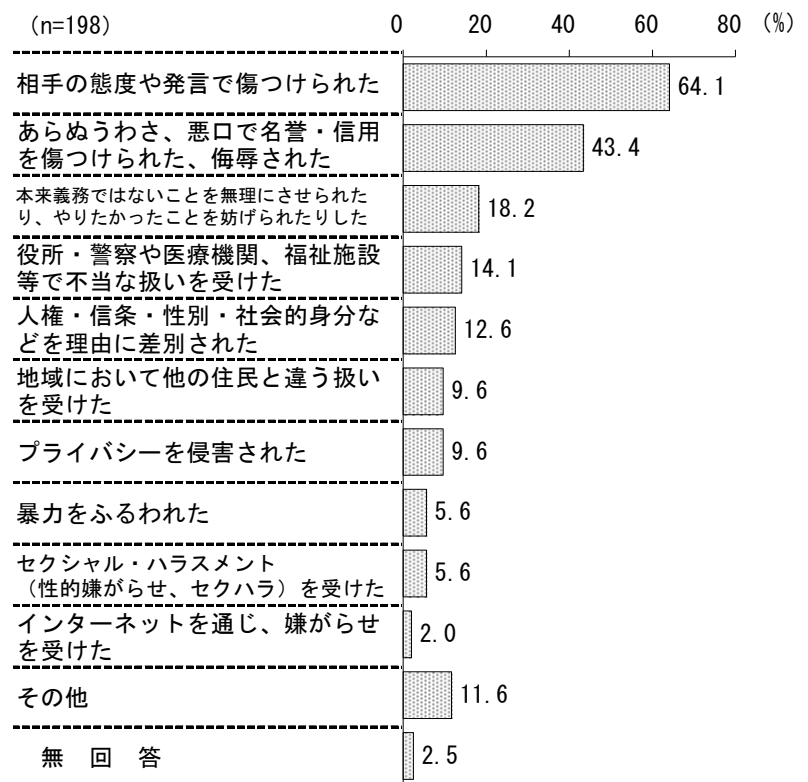
過去5年間に差別や人権侵害を受けたと感じたことがあるか聞いたところ、「たびたび感じる」(2.9%)と「たまに感じることもある」(10.2%)を合わせた『感じる』(13.2%)が1割台半ばであった。一方、「ほとんど感じることはない」(34.0%)と「まったく感じない」(46.5%)を合わせた『感じない』(79.6%)が約8割となっている。



(2) 差別や人権侵害を受けた内容

(複数回答：いくつでも)

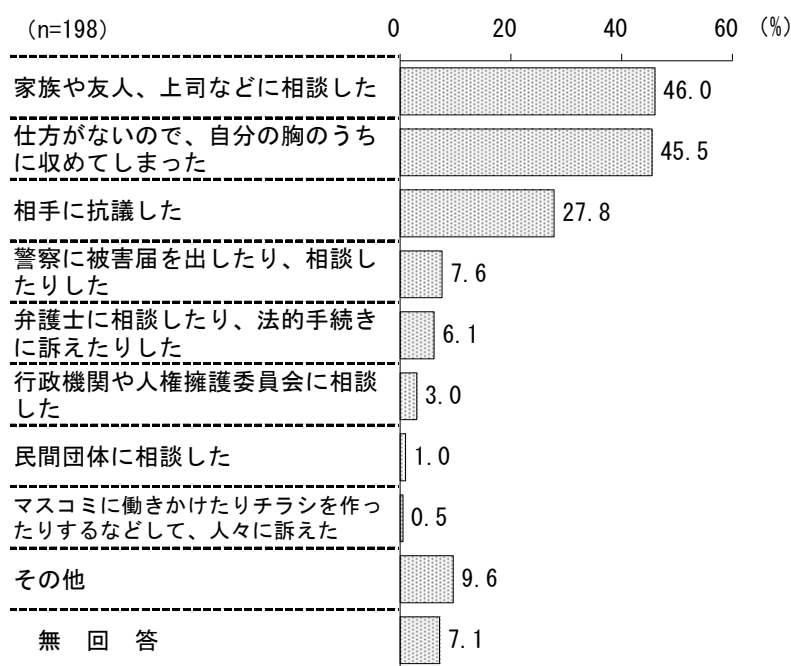
過去5年間に差別や人権侵害を受けたと「たびたび感じる」と「たまに感じることもある」人にどのような内容を聞いたところ、「相手の態度や発言で傷つけられた」(64.1%)が6割台半ばで最も高く、以下、「あらぬうわさ、悪口で名誉・信用を傷つけられた、侮辱された」(43.4%)、「本来義務ではないことを無理にさせられたり、やりたかったことを妨げられたりした」(18.2%)と続く。



(3) 差別や人権侵害を受けた時の対応

(複数回答：いくつでも)

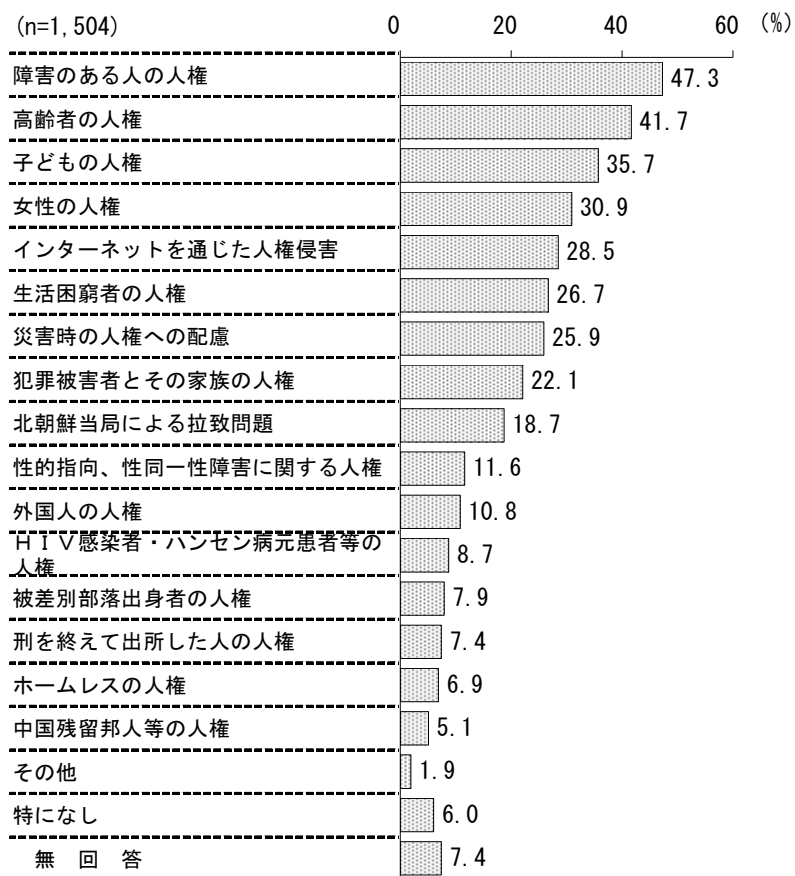
過去5年間に差別や人権侵害を受けたと「たびたび感じる」と「たまに感じることもある」人にどのような対応をしたかを聞いたところ、「家族や友人、上司などに相談した」(46.0%)、「仕方がないので、自分の胸のうちに収めてしまった」(45.5%)が共に4割台半ばと高く、以下、「相手に抗議した」(27.8%)と続く。



(4) 今まで以上に啓発すべき人権問題

(複数回答：いくつでも)

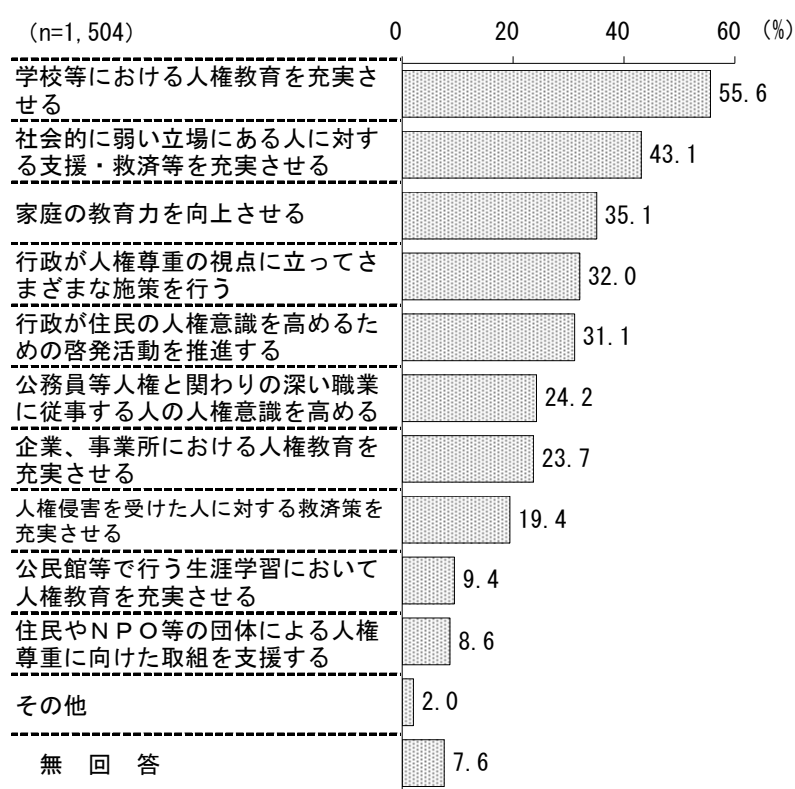
さまざまな人権問題について、今後、今まで以上に啓発すべき内容としては、「障害のある人の人権」(47.3%)が約5割と最も高く、以下、「高齢者の人権」(41.7%)、「子どもの人権」(35.7%)、「女性の人権」(30.9%)、「インターネットを通じた人権侵害」(28.5%)、「生活困窮者の人権」(26.7%)と続いている。



（５）人権が尊重される社会を実現するために必要な取組

（複数回答：いくつでも）

人権が尊重される社会を実現するために、今後、千葉県において必要な取組は「学校等における人権教育を充実させる」（55.6%）が5割台半ばと最も高く、以下、「社会的に弱い立場にある人に対する支援・救済等を充実させる」（43.1%）、「家庭の教育力を向上させる」（35.1%）、「行政が人権尊重の視点に立ってさまざまな施策を行う」（32.0%）、「行政が住民の人権意識を高めるための啓発活動を推進する」（31.1%）と続いている。



《「人権問題について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、105人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

○家族と人に対する思いやり、命の大切さ、人のいたみ、親がきちんと教えるべきだと思う。

（女性、50代、千葉地域）

○家庭内での教育＝躾、学校等における教育、社会における実践哲学のうち、一番基本で初期に必要な躾がおろそかになっている。いま一度、有識者等により躾の大切さ、家庭内への普及について検討、実施する必要があると思います。（男性、65歳以上、葛南地域）

○人権尊重も大事な事ですが、まずは人間形成が一番だと思います。個々の人間が心豊かになれば、自然に人権を守る様になり、尊重する様になるのではと思います。（女性、20代、香取地域）

○無知無学、自身が経験した事のない事に対して偏見や差別的発言を受ける事は非常に辛い事です。このような事がない様、家庭や学校、社会でこれらの問題に関して啓蒙活動を実践し、問題解決に近づけてほしいと思います。（男性、40代、葛南地域）

○立場の弱い人には周りの人がよりそってあげるとか、助け合う事が必要だと思う。

（女性、60～64歳、君津地域）

【世論調査に関する意見（抜粋）】

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、142人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載した。

- 千葉県がもっとよくなるといいと思います。千葉県も発展してる場所と、そうでない場所の差が激しいので、千葉県全体が発展できるといいと思う。（女性、20代、東葛飾地域）
- 直接、意見、提案、希望など話し合える機会がほしい。（女性、60～64歳、山武地域）
- 若年者の考え方がどうなっているか知りたい。（男性、65歳以上、印旛地域）
- 世論調査の内容が多義にわたる為、回答がかなり時間がかかり、忙しい人には負担がかかると感じました。（男性、60～64歳、山武地域）
- 返信が遅くなり申し訳ございませんでした。初めてこのような調査をいただき、様々なことを知るきっかけになると思いました。他人事ではなく、この調査の項目にあったことを、この機会に正しく調べ、知ろうと思います。ありがとうございました。（女性、40代、葛南地域）
- 簡易的な調査の頻度を多くして下さい。各市町村の年代（年齢層）が高くなり、また都市部への転出も多くなるかもしれないので、情報の収集と公開に努めて下さい。
(男性、40代、君津地域)